

金ヶ崎町社会教育指導員研修会（8月）

「むすぶ・つなぐー社会教育関係職員の仕事ー」として生涯教育センターの事業や役割、社会教育指導員の仕事等について改めて振り返る研修を行いました。社会教育指導員の方々は限られた時間の中で各種の事業等を行っています。忙しくなると仕事に追われ、元々の意義や狙いが薄らいでいきます。もう一度足下を見つめ、社会教育指導員の役割と地域について考える機会としました。

◆講義「中央・地区センターの果たすべき機能の原点をみんなで考えよう」

当センター所長を講師として、社会教育指導員からの悩みや疑問、やり甲斐や喜びについてなど、直接対話しながら進めました。講師が話すだけの一方的なものではないので、社会教育指導員の皆さんは「スケジュールに追われている」「仕事を覚えるのが大変」「地域住民とのコミュニケーションが大変」などの本音を話していました。それらに答えながら、なぜ地区センターが必要なのか、実際の事業の効果はどうかなどの話を進めて行きました。

社会教育指導員からは、「所長が大変なことも理解してくれていて、話が分かりやすかった」「所長の熱い話を聞き、自分にできること求められていることを考えた」等の感想が聞かれました。改めて自分たちの役割を理解する時間となりました。



当センター所長 佐藤 公一

◆講義・演習「事業プログラムの企画・運営について」

当センター社会教育主事 下久根が、前回7月の研修会で各グループが選んだ、各地区センターで実践できる共通の事業プログラムについて、具体的内容を企画する演習を行いました。中央生涯教育センターや各地区センターの社会教育指導員が集まり、事業プログラムの企画をすることは初めてで、「新鮮な経験だった」との声も多く聞かれました。

参加した社会教育指導員からは「意見の共有の大切さを知ることができた」「積極的な話し合いで、スムーズに進む事業プログラムが出来た」などの感想が聞かれました。事業プログラムを企画する過程を通して、指導員同士での情報交換、助け合い、価値観の共有などの必要性を学びました。

今後は、各グループで作った事業プログラムを実践し、その課題と検証等を行いたいと思います。



各グループの事業プログラムの発表の様子



《受講者の声》

- グループの事業プログラムを是非実現させたい。新しいものを企画するのは、失敗や非難を考えると実行するのは難しいが、所長の「失敗してもいい」と言う言葉に救われた。
- 一人で考えない、相談をしてみる、実際にやってみて失敗をする、そして前に進む、情報の共有が大事だと分かった。
- 相手の立場に立って考え、プチやり甲斐を見つけて行きたい。

《受講者の評価》

A（有意義）	81.8%
B（どちらかといえば有意義）	18.2%
C（どちらかといえば有意義でない）	0%
D（有意義でない）	0%

《担当者（下久根）から》

社会教育指導員の皆さんは、限られた時間やプレッシャーの中で多くの仕事をしています。目の前の業務に忙殺されず、少しでも社会教育・生涯学習にやり甲斐を感じて頂ければと思っています。